

2024年4月23日

「糖代謝異常の女性が求める産後1か月までの支援と看護職者の実践と課題」への 参加ご協力をお願い

I. はじめに（研究の概要・目的について）

久留米大学医学部看護学科に所属する助産師の永田真理子と申します。高齢妊娠・出産が増加しているわが国では糖代謝異常妊娠のさらなる増加が予測され、その対策は重要な課題です。妊娠中の糖代謝異常は妊娠糖尿病と1型糖尿病、2型糖尿病に大きく分類され、全妊婦の約10%は糖代謝異常妊娠が占めています。その中で、糖代謝異常の産後は育児と療養の両立が課題となっており、助産師による産後ケアの充実が求められています。そこで今回、糖代謝異常の女性が産後1か月までにどのような支援を必要としているのか、また支援する助産師の実践状況と課題について明らかにし、具体的な産後ケアを検討することを目的としています。

本研究は久留米大学の倫理委員会で審査され、学長の許可を受けて実施しております。今後の支援の発展に資するものですので、ご理解ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

II. 研究参加にあたり、以下の内容をご確認ください（対象者・方法・期間・研究参加・研究成果について）

- 本調査は「①1型糖尿病・②2型糖尿病・③妊娠糖尿病の女性で産後1か月から産後2年までの方」と「④糖代謝異常の女性の産後ケアを実施している助産師」を対象者としております。
- 参加の同意が得られた後、①～④の対象者別に ZOOM にてグループインタビューを行います。インタビューの日程は各グループ別に調整させていただきます。①～③の対象者への主な質問内容は「産後1か月までの生活状況と支援の要望」、④の対象者への主な質問内容は「産後1か月までの支援の実施状況と課題」です。いずれの質問内容も「出産後から退院までの時期、産後2週間健診の時期、産後1か月健診の時期」の3つの時期を軸にグループで話をしていただければと思います。
- 研究期間は研究実施許可日～西暦2027年3月31日までを予定しています。
- 本調査への協力は自由意思であり、調査に協力いただけない場合でも不利益が生じることはありません。また、参加を撤回されても不利益が生じることはありません。
- 調査によって得られたデータは仮名加工化するため、個人が特定されることはありません。
- 調査によって得られたデータは、久留米大学内の施錠可能なキャビネットとインターネットに接続されていないPCに保管します。保管期間は研究終了報告から5年（論文発表後は10年間）とし、その後はシュレッダー処理及びデータの削除を行います。
- 本調査の成果は、学術研究として学会や論文投稿などに使用される場合がありますが、名前など個人を特定するような情報が公表されることはありません。また、調査結果は本研究の目的以外に使用しません。
- 調査研究に対する謝礼として、QUOカード2000円をお渡しいたします。

【問い合わせ先】

研究責任者 所属：久留米大学医学部看護学科 氏名：永田 真理子
住所：〒830-0003 久留米市東櫛原町777-1 メールアドレス：nagata.mariko2022@gmail.com
TEL：0942-31-7714（受付時間：（平日）9時～17時）

- ★参加に協力しても良いと思われる方は、以下のQRコードより
研究責任者まで「参加希望」のメールをお送りください。
研究責任者より折り返し、研究参加についてご説明させていただきます。

ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

